

report. 1

## 26年ぶり、本州でのシマフクロウの飼育

飼育展示担当 佐々木 祐紀



●愛花(5月16日)

シマフクロウは国内に生息するフクロウの中でも最大級の大きさを誇り、世界的にもトップクラスの大きさです。食性は主に魚類ですが両生類、甲殻類、鳥類、哺乳類など多くの種類をエサとしています。かつては、北海道内に広く分布していたようですが、近年では生息地の減少や環境の悪化により生息数が減り続け、天然記念物にも指定されています。

過去に本州では上野動物園や鹿児島市平川動物公園に1羽ずつが飼育されていましたが、1993年に釧路市動物園に個体が集められペアの形成がなされたようです。その取り組みが実り、少しずつ羽数を増やし北海道内の4つの動物園で新たに飼育やペア形成がなされました。

そして、26年ぶりにシマフクロウの本州での展示が再開され、

大森山動物園でメスの「愛花」を飼育することになりました。暑さを苦手とする動物のため、夏場をより過ごやすく、風通しがよくなるよう飼育部屋を手直しし、室内に冷風を送るよう環境を整えました。

長年、猛禽類の飼育に携わって来ましたが、シマフクロウは初めて飼育する動物種です。はたして環境に馴染んでくれるのか不安なところもありましたが、意外に落ち着いていて、掃除をしてもこちらを見て「ん?」という感じの表情を見せ、驚くこともなく安心しているようです。

堂々とした姿に強さと格好良さを感じられますが、頭には羽角という耳のように見える飾り羽根があり、愛嬌を感じさせる一面もあります。これからより多くの人にシマフクロウの魅力を伝えて行きたいと思います。



●羽角の状態で機嫌がわかります

report. 2

## 5年ぶりのマーコールの繁殖

飼育展示担当 山本 明子

2019年6月25日にマーコールに双子の赤ちゃんが生まれました。当園でのマーコールの繁殖は5年振りです。5月下旬に胎動を確認し、クルミが妊娠しているのをはっきりと知ることができました。それから出産までの日々は、いつ生まれるのかとハラハラドキドキでした。

出産当日、クルミは朝から壁やフェンスに囲まれ、人目にあまりつかない場所で休息していました。16時半過ぎ、夕方の給餌に向かうと、クルミはその場所でいきみはじめていました。オスにエサを与えながら静かに見守っていると、無事に双子が誕生しました。1頭目を出産した直後からク



ルミは子をなめるなどの世話をしはじめ、1頭目の出産から15分程後に2頭目を産みました。

生まれて1時間程で子どもたちは立ち上がり、不安定な足取りで乳を求めてお母さんの周りをウロウロしはじめました。今では、大人と同じエサも食べるようになり、米粒程の大きさのウンチを展示場内で見かけるようになりました(大人のウンチは金時豆程の大きさ)。

双子はオスとメス。大人になると角の大きさもですが、単純に体格も性別により差が出てきます。7頭になったマーコール群のこれからを長い目で観察していただけたらうれしいです。



●クルミと双子(6月26日)

## 動物とお薬のおはなし

獣医師 山本 達也

移動動物園でのモルモットとのふれあい

動物園の「なかよしタイム」などで皆さんがさわっているモルモットやウサギは、皆さんが安心してさわれるように、獣医師がノミやダニ用の薬を塗り、虫下しの注射や飲み薬を飲ませていることを知っていますか?動物園は他にもたくさんの種類の薬を使っています。と言ってもゾウ用やライオン用、チンパンジー用などの薬は販売していないため、家畜用や犬猫用、ヒト用の薬を使っています。また用量(どのくらい薬をあげるか)は、多くの本や論文、今までの経験などを参考に決めています。そのため、同じ薬であっても、どの動物にどのくらいあげるのか考えることはひと苦労です。

薬のあげ方も色々あります。動物を捕まえて注射をすることも、吹

## シロクロウの人工育雛を経験して

飼育展示担当 齊藤 光貴

2019年6月23日、大森山動物園にシロクロウのヒナが生まれました。シロクロウを見たことがない人も、映画「ハリー・ポッターシリーズ」で主人公ハリーがペットとして飼う「ヘドウィグ」を覚えている人も多いのではないのでしょうか。

以前、大森山動物園のシロクロウには、飼育員の腕に乗り、お客様との記念撮影やふれあいなどに活躍していた「ハク」がいましたが、残念ながら2018年7月に亡くなったため、今回生まれたヒナを人工育雛し、ハクの後を継いでもらうことにしました。

シロクロウは、足の指まで羽毛が生えていて、オスはほぼ純白、メスは白い体に黒く細かい縞模様がありますが、産まれたばかりのヒナは、目も開いておらず、頭の毛も薄く、まるで童話「みにくいアヒルの子」のように外見からはシロクロウの



● 保育器の中のヒナ(7月18日)

赤ちゃんとは判別できません。「かわいい」という概念からはほど遠い外見ではありますが、私達飼育員には本当に愛おしく、成長が待ち遠しい毎日です。

生後1カ月以上が経過すると、体重は800グラムを超え、少しずつ羽毛も生えそろう、園内の芝生の上でお散歩ができるようになりました。

最初は小さいサイズのお肉を少量しか食べられなかったのが、成鳥用サイズのお肉を食べられるようになり、生後2カ月には体重も約1.5キロと随分大きくなっています。

私はシロクロウの担当になって人工育雛というものを初めて経験していますが、あんなに小さかった赤ちゃんがたくましく成長していくことに驚きつつも、改めて命の尊さを感じています。



● 園内をお散歩(8月15日)

## アムールトラ、カサンドラの初産

飼育展示担当 佐藤 正 奥山 麻裕子



● ヒロシ(左)とカサンドラ

希少動物であるアムールトラの繁殖のため、2016年にロシアから来園したカサンドラとオスのヒロシとの間

に今年2月に初めて子どもが生まれました。肉食獣は、親が子育ての環境に不安がある場合、子食いをしてしまう事もあるため、警戒心が強いカサンドラが、初めて目にする自分の子どもにどんな反応をするのか心配でした。

最終交尾日から数えて102日目の2月28日、夜8時頃から出産が始まり、10時間ほどかけて全部で4頭の子どもが生まれました(カサンドラの部屋には観察用カメラと音声用マイクを設置して、子どもの様子はモニター越しに観察しました)。

元気に鳴く自分の子どもを目の前にしたカサンドラは、小さな子どもたちを踏んでしまわないように気をつけながら母乳を飲ませた

り、身体を舐めてあげたりと、しっかりと子育てをしており、私たちも安心しました。

しかし、数日すると子どもたちは徐々に体力が落ちていき、鳴き声は小さく、動きも鈍くなっていきました。カサンドラも子どもたちを一生懸命に舐めて元気づけようと頑張っていました。トラの初産は、子どもの生存率がかなり低いことは知っていましたが、一頭、また一頭と亡くなっていくのを見るのは本当に辛かったです。

今回亡くなった4頭のみで次に生まれる子どもたちが大きく成長し、元気な親子の姿を皆さんにご覧になってもらえるよう、私達も飼育管理に全力を注いでいきます。



● 出産2日目の様子(3月1日)

き矢を使って注射することもあります。皆さんは注射が好きですか？私は嫌いです。動物たちも注射は嫌いで、捕獲や吹き矢を使うことは動物の体に負担がかかるため、飲み薬を使うことが多いです。しかし、飲み薬はおいしい薬ばかりでなく、マズく苦い薬も多いため飲んでくれない動物たちもいます。そこで飼育員はひと工夫をします。レッサーパンダは錠剤をリンゴに入れ、舌に当たらないようにあげます。また私の担当のポニー・ミニチュアホースもペースト状の薬を食パンに塗って与えています。しかしミニチュアホースのエニフは、察しがよく、こちらが食べてくれるか緊張していると、「パンになにか入れた？」とばかり、寄って来ないことや口か

ら出すこともあります。そこで、私は緊張を隠し、いつもと同じように接しながらパンをちぎってあげると食べてくれました。

皆さんが注射をされる時や薬を飲む時に、動物たちと飼育員や獣医師の攻防を思い出していただければ幸いです。

薬に対して察しのよいエニフ

